

# 令和6年度 学校経営報告(学校評価報告書)

四條畷市立四條畷中学校  
校長 河上 弘子

## Ⅰ 学校経営方針

### ●学校教育目標

《心を磨く》強い意志と豊かな心を持ったたくましい生徒の育成

《人に学ぶ》自ら学ぶ意欲と考える力を持った生徒の育成

### ●育てたい生徒像

しなやかに、たくましく生きる生徒の育成

### ●令和6年度重点目標

「みんな大事 ～私もあなたも大事な仲間～」

☆学校は安全・安心な場所

①学校に来ると楽しい

②クラスに自分の居場所がある

③安心して人と話すことができる

④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる

⑤クラス・学年の取り組みや学校行事クラブ活動が楽しい

⑥あたり前の日常を大切に生活する

⑦頑張っている生徒が報われる

## 2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

|          |                                       |
|----------|---------------------------------------|
| ★めざす学校像  | 明日も行きたいと思える学校                         |
| ★めざす子ども像 | しなやかに、たくましく生きる生徒                      |
| ★めざす教師像  | 温かい声かけ、まなざしのある教師<br>生徒にとって一番身近なロールモデル |

### 3 学校の現状（よさと課題）

#### (1) 子どもたちの実態

学校生活全般において素直に積極的に取り組める生徒が多く、学習面でも「わかりたい」、行事に関しても「やってみたい」と前向きな思いを持っている。

一方で、自分の発言を周りがどう思っているかを気にする動きや、周りに同調して、自分の意思どおりに行動できないことがある。また、人間関係が限られたものになりがちである。

成育過程において、保護者や周りの大人が保護したり、先回りして手助けすることもあったのか、失敗したり、そのうえでやり直してみてもうまくいったという経験が少ないような気がする。人とぶつかりながらも、より良い答えを見つけたり、失敗してもやり直せるという経験をさせたりしながら、自立をめざして、自己選択・自己決定を促すことが課題である。

また、家庭での学習習慣に課題のある生徒も多く、学習・生活ともに、主体的に取り組むしかけが必要である。

#### (2) 子どもたちを取り巻く環境

##### ①教育環境

統合により校区も広くなり、生活環境（経済的なこと含む）や家庭状況は様々である。多様な保護者の考え方に影響を受ける子どもたちも多く、その考え方も多様であり、「違いがあっても当然であること」「違いを認めること」また、違いを「受け入れ合う力」がより大切である。

##### ②地域

全体的に学校教育に関しては協力的な地域である。保護者も（時に代々）卒業生であることも珍しくない。

南中と畷中が統合して以来、それぞれの地域が大切にしてきた活動を守りつつ、新たなかたちを模索しているところであるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、いまだ模索中である。コミュニティスクールの取組みの推進とともに、これからの時代の地域との連携の在り方を確立していきたい。

##### ③組織（教職員、PTA、保護者）

###### ・教職員

こどもに丁寧に寄り添い、繋がろうとしており、とても熱心に日々の指導・支援に取り組んでいる。世代交代が一気に進み、20～50代の年齢幅が大きい教員構成で、20～30代が約半数を占める。各学年に、経験年数の多い教職員や本校在籍年数の多い教職員をバランスよく配置するとともに、主任や主事、部長などは、いわゆるミドルリーダーが担っており、学校運営はスムーズに進む。

###### ・PTA、保護者

PTAはとても協力的であり、十分に情報共有・連携ができており、学校運営の大きな支えとなっている。今年度より、PTA活動を「できる人が、できる時に、できることを」という活動趣旨に変更し、組織をスリム化した。また、昨年度より、学校行事に際して、ボランティアとして協力いただける保護者をそのつど募るというスタイルに変更し、多くの参加協力をいただいている。

保護者は、概ね学校教育に熱心で、理解もあるが、地域や世代によって、考え方は多様である。

## 4 今年度の達成目標、具体的な方策

### 目標設定区分Ⅰ『学校経営』

| A 今年度の成果目標  |                               | 達成基準(各種調査、アンケート等)  |   |
|---|-------------------------------|--|---|
| みんな大事 ～私もあなたも大事な仲間～<br>☆学校は安全・安心な場所<br>①学校に来ると楽しい<br>②クラスに自分の居場所がある<br>③安心して人と話すことができる<br>④授業が「わかる」、「がんばると「できる」と感じる<br>⑤クラス・学年の取組みや学校行事・クラブ活動が楽しい |                               | 学習・学校生活に関するアンケート(生徒・教職員)における肯定的回答<br>A:学校に来ることは楽しいですか<br>B:しんどい時困った時に周囲の仲間に相談できますか<br>C:みんなのために進んで自分の役割を果たせますか<br>D:先生はあなたの良い所を認めてくれていると思いますか<br>E:授業中、安心して発言できていますか<br>F:分からないことや困ったことがあると周囲に聞くことができますか<br>G:学校の授業はよくわかりますか<br>H:行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか |   |
| B 目標実現に向けた取組み   |                               |  |   |
| 項目  | 達成基準                          | 結果   | 評価  |
| ①楽しい学校づくり   | A:80%以上                       | 87.4%  | ・生徒会・委員会・係活動を活発化し、達成感を感じさせることができた   |
| ②居場所づくり   | B:80%以上<br>C:85%以上<br>D:85%以上 | 86.5%<br>88.7%<br>89.6%  | ・班活動、グループ活動を積極的に取り入れ、集団づくりをすすめるとともに、生徒会・委員会・係活動を通じて、自分の役割を意識させることができた<br>・教育支援ルームや通級指導教室など、個に応じた居場所を十分に提供することができた                     |
| ③心理的安心感   | E:80%以上<br>F:85%以上            | 87.3%<br><b>79.5%</b>  | ・道徳、人権教育を中心とした全活動で、人とのつながり方、人を思いやる心を育成することができた<br>・班活動を通じて、認め合う集団づくりに引き続き取り組む<br>・人権意識を高く持ち、子どもの発言・行動を見守り、特性、背景を理解した子どもに寄り添った生徒指導を行った |
| ④「わかる」「できる」をめざした授業改善  | G:80%以上                       | 88%  | ・非認知能力の向上をめざして、教材研究、研究授業を実施した<br>・ICTも効果的に活用し、わかりやすい授業工夫を行った  |
| ⑤行事やクラブへの積極的な取組み  | H:85%以上                       | 87.5%  | ・子どもたち主体で、企画・運営させ、達成感、成功体験を増やすことができた<br>・クラブ活動を通じて、子どもの活躍の場をつくった  |

## 目標設定区分2 『学校組織の運営』

| A 今年度の成果目標   |                                  | 達成基準(各種調査、アンケート等)  |   |
|--|----------------------------------|--|---|
| みんな大事 ～私もあなたも大事な仲間～<br>の実現のために教職員で心がけたいこと<br><br>①教職員間のコミュニケーション<br>②情報共有、役割分担を意識した組織対応<br>③活発な意見交流や議論によるイメージ共有<br>④学年間、部間の円滑な調整<br>⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル<br>⑥教育公務員としての適切なふるまい |                                  | 学習・学校生活に関するアンケート(教職員)における肯定的回答と年度末総括、面談等で聞き取る意見<br>I: 学校の状況や課題に対し全職員で組織的に取り組んでいるか<br>J: 「みんな大事」を意識して取り組んでいるか<br>K: 「わかる」「できる」をめざした授業改善に取り組んでいるか<br>L: 安心して学べる場を作るという活動を意識して取り入れているか<br>M: 年度末総括の分析<br>N: 主任会、学校運営委員会での意見<br>O: 面談等での意見 |   |
| B 目標実現に向けた取組み  |                                  |  |   |
| 項目   | 達成基準                             | 結果   | 評価  |
| ①教職員間のコミュニケーション  | I: 80%以上<br>J: 80%以上<br>O:       | 88.5%<br>91.4%   | ・グループウェアなども活用し、情報の共有が図れた<br>・TM 通信、通級通信などを介して、何を大事にして指導にあたるかの共通認識が図れた           |
| ②情報共有、役割分担を意識した組織対応  | I: 80%以上<br>J: 80%以上<br>M:<br>O: | 88.5%<br>91.4%   | ・グループウェアなども活用し、情報の共有が図れた<br>・主任会や運営委員会において、各学年の状況を共有し、学校全体でことにあたることのできた         |
| ③活発な意見交流や議論によるイメージ共有   | K: 85%以上<br>L: 80%以上<br>M:<br>O: | 100%<br>97.1%  | ・職員会議内での情報共有やミニ研修などを通して、学年、キャリアを超えて意見交流や議論ができた<br>・その結果、何を大事にして指導にあたるかの共通理解が図れた |
| ④学年間、部間の円滑な調整  | M:<br>N:<br>O:                   |  | ・定期的な主任会、学校運営委員会を開催できた<br>・学年セクトにしばられず、情報共有や共通認識が図れた                            |
| ⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル  | O:                               |  | ・全校集会や学年集会、HRなどで教職員が語っている<br>・セルフメンテナンスデーを設定できた                                 |
| ⑥教育公務員としての適切なふるまい  | O:                               |  | ・職員会議のたびに実際の事例を用いて注意喚起を行った  |

### 目標設定区分3 『人の管理・育成』

| <b>A 今年度の成果目標</b>   |                | <b>達成基準(各種調査、アンケート等)</b>  |                       |
|---|----------------|---|-----------------------|
| 学校づくりに主体的に参画する人材の育成<br><br>①担当からの発案の促しと委任<br>②学校⇄部・学年⇄学級という組織的な意思決定 |                | 学習・学校生活に関するアンケート(教職員)における肯定的回答と年度末総括、面談等で聞き取る意見<br>I: 学校の向上や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいるか<br>M: 年度末総括の分析<br>N: 主任会、学校運営委員会での意見<br>O: 面談等での意見 |                       |
| <b>B 目標実現に向けた取組み</b>  |                |   |                       |
| 項目  | 達成基準           | 結果  | 評価                    |
| ①発案の促しと委任   | I: 80%以上<br>M: | 88.5%   | 各担当からの発信、発案が増えつつある    |
| ②組織的な意思決定   | I: 80%以上<br>O: | 88.5%   | 組織的な意思決定のプロセスは定着しつつある |

### 目標設定区分4 『地域連携と渉外』

| <b>A 今年度の成果目標</b>   |            | <b>達成基準(各種調査、アンケート等)</b>   |  |
|---|------------|--|--|
| ●CS(コミュニティスクール)<br>①学校ニーズに応じた安定的な活動<br>②地域への積極的な発信<br><br>●小中連携<br>③小中の教職員の交流、9年間を見通した取り組みの充実 |            | 学校教育に関するアンケート(保護者)の肯定的回答と、年度末総括での意見など<br>P: 学校は保護者地域の願いに応えている<br>Q: 暇中だよりの定期的発行や各会議における発信<br>M: 年度末総括の分析 |  |
| <b>B 目標実現に向けた取組み</b>  |            |  |  |
| 項目  | 達成基準       | 結果   | 評価   |
| ①ニーズに応じた安定的な活動  | P: 80%以上   | <u>66.3%</u>   | ・CSの活動等について、保護者にもっと発信する必要がある<br>・保護者の願いをくみ取ることについて検討していく |
| ②地域への積極的な発信   | Q: 年間10回以上 | 19回  | 学校HPにも定期的に掲載できた  |
| ③小中連携の充実  | M:         |  | 児童×生徒、児童×児童、教師×教師で小中連携できることをしっかりと検討していく                  |

## 5 学校関係者による評価（学校運営協議会等）

放課後の見守りについて、はじめは生徒たちも距離をとっていたが、だんだん顔見知りになってくると声をかけてくれるようになった。CSの活動について、生徒や保護者、地域に対して改めて周知が必要である。

学校が楽しくなる、明日も来たいと思わせる努力をしていることは伝わるので、CSとしても協力したい。

## 6 総合評価と次年度に向けて

不登校や集団に入りにくい傾向のある生徒などへの多様な支援が本校の重要課題の1つである。この間、生徒理解を丁寧に行い、キーパーソンを中心に家庭訪問、別室（校内支援ルーム）登校、リモート授業などを行い、多様な学びの場の充実を図るなど、学校全体で不登校課題に取り組んできた。「学校」という場所が安全で、行ってみようかなと生徒が思えるような場所でありたいと、「ひとり一人と学校がつながる」ことに取り組んだ結果、今年度は不登校者数を大幅に減らすことができた。

また、CSメンバーによる放課後の見守り活動をスタートさせた。将来的には、教育支援ルームでの対応や休み時間などの居場所づくり対応をめざして、今年度はまずクラブ活動の見守りから始まり、開放した相談室に、CSメンバーの方々が家で使わなくなったボードゲームや折り紙などを持ってきていただき、放課後の居場所を作ることができた。

安全な居場所があり、温かいつながりが持てる友だちや教員がいる「明日も行きたいと思える学校」づくりに引き続き努めたい。